

シーニックバイウェイルート審査委員会による審査結果概要（第3次ルート提案）

（1）シーニックバイウェイルート

①函館・大沼・噴火湾ルート

視点 委員	1					2	3	4	推薦 可否	付帯意見
	景観	自然	文化	歴史	レク					
A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	特になし
B	○	○	○	○	—	○	○	○	○	特になし
C	○	○	△	○	—	○	—	○	△ *候補ル ートとし て推薦	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を通じて熟度が足りないように感じられる。 ・ネーミングにもう少し工夫を ・活動団体と行政の連携が不足 ・歴史的資源、自然の資源は魅力的であるが、そこに人としてのおもてなしの心をどう伝えていくか？ということが大切。 ・シーニックバイウェイの指定を受けることで、一層、地域連携の推進が見込まれるのであればシーニックバイウェイ指定ルートとして推薦も可。
D	○	○	○	○	—	○	○	○	○	特になし
E	○	—	○	○	—	○	○	○	○	特になし
F	○	○	—	○	—	○	○	○	○	特になし

②釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ

視点 委員	1					2	3	4	推薦 可否	付帯意見
	景観	自然	文化	歴史	レク					
A	○	○	○	—	○	○	○	○	○	特になし
B	○	○	—	△	—	△	○	△	△	<ul style="list-style-type: none"> ・推薦できるが、○でなく、△であることの意味を以下に記したい。 ・圧倒的な資源に支えられたルートであり、推薦できる。 ・しかし、言い過ぎかもしれないが、資源性への依存が他ルートに比較して大きいようにも感じられ、今後の挑戦に期待するという意味を込めて、○ではなく△と表記した。
C	○	○	○	○	△	○	○	○	○	活動がわかりやすく一体感がある。神秘を五感で感じる様子がルート全体にみなぎっている。活動団体に若さ活気が感じられ今後に期待できる
D	○	○	—	—	○	○	○	○	○	特になし
E	○	○	—	○	○	○	○	○	○	特になし
F	○	○	—	—	○	○	○	○	○	特になし

シーニックバイウェイ審査委員会 意見

■シーニックバイウェイルート

◆シーニックバイウェイルート全体に対する意見

候補ルート期間内に深めた活動の連携と質の向上をこれからも継続させ、力強い地域の一体感の醸成を進められたい。

道外、国外の地域づくりの事例を踏まえると成功のポイントは、「自主性」「挑戦」「活動のネットワーク」「人材育成」「住民との連携」など挙げられる。これらに留意しつつ、地域に合ったスピードで具体的な活動を展開していくとともに、今後の活動が地域全体の活動となっていくことが望ましい。

特にルート内における景観、自然、歴史、文化、レクリエーション資源などの地域資源の保全・改善のための活動を総合的に実施し、質の高い旅行空間の形成を目指しルートを運営するにあたり、以下の点に留意しつつ進められたい。

- ・地域特性の活用：北海道特有の気候風土を生かし、常に新しいものの追加、物語性の充実、国際競争力の強化を進め、通年性、持続性を確保
- ・景観への取り組み：景観意識の向上、景観や地域資源を生かしたコミュニティビジネスの創出
- ・自然に与えられた景観の活用に加え、まちなかの建物・看板等の規制や指導などの検討
- ・既存観光地からの脱却を目指し、歴史文化資源の活用、食文化、レクリエーション資源など幅広く地域の個性を生かした地域主導型の新たなツーリズムの展開や個人型旅行の促進・対応に向けた取り組みの実施
- ・持続性の確保：参加する各主体（国、道、市町村、活動団体、住民）による持続的な責任ある行動とその活動や成果に対する外部評価やアドバイザーの採用
- ・ホスピタリティ向上：研修プログラムの実施、地域での多様な人材育成
- ・全国・世界への情報発信、旅行会社等民間企業との連携
- ・開かれた運営体制：継続的な参加者の募集、地域住民やコミュニティとの連携・協働

◇ 函館・大沼・噴火湾ルート

景観資源、歴史的資源、自然資源は魅力的な資源と言えるが、人々が生活する場の景観の改善や、各資源の融合、組み立てによるブランド化に向けた取組を期待したい。

ホスピタリティ向上等、来訪者をお迎えする「おもてなし」について、具体的に活動計画に反映されたい。

活動団体同士や行政、企業やNPO等、多種多様な主体の参加・協働を一層進めるとともに、広域的な連携を行うにあたり、「人材育成」について体制の強化が必要である。

◇ 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ

4エリアにおける資源性は申し分ないが、資源価値が高すぎる上での課題がある。自然資源の保護・調和、市街地部とその周辺の近景・中景の景観の改善等に取り組んでいく必要がある。

アイヌ文化など、当該地域のもつ神秘性のある歴史・文化・自然を活用した演出など、新しい取り組みにも期待したい。

特にエリアが広大であることから、活動団体同士や行政、地域住民等と一層連携した取り組みが必要であるとともに、機動力のある十分な体制の運営が必要である。